

子どもは新しい集団でどのように学ぶか

海村 由紀(上越教育大学学部)

要 約

小学校では毎年,または隔年クラス替えが行われる。また,近年少人数編成授業が導入され,子どもたちが新しい集団の中で学習する機会が増えた。本研究は,新しい集団の中で子どもはどのように学ぶのか,学びの姿は変化していくのか,少人数編成による効果や実態を明らかにすることを目的とする。

クラス替えをはさんで一人の児童に注目した結果,注目した子どもはクラス集団によって仲間の位置づけをしていることが明らかになった。その位置づけができたとき,その自分の置かれた状況で自分にとってよりよい学びのスタイルを見つけ,学んでいることが明らかになった。また,少人数では教師との会話が增加していることが明らかになった。

[キーワード] クラス替え 少人数編成 位置づけ 立ち歩き 会話

研究の背景と目的

小学校では毎年,または隔年クラス替えが行われている。子どもたちは1年ごとに作り上げてきた生活集団をリセットされる。また,少人数編成も導入され,更に新しい集団に入る機会ができる。

文部科学省では,2003年度から実施された少人数編成において「少人数学級の編成により,教員が細やかに対応できるようにすることを目指している。また,学級は社会性を学ぶ『生活集団』と位置づけし,教科の授業については学級の枠を外して自由に編成できるようにすることを求めている。」と述べている¹⁾。辺土名(2002)では「学習者は一見自分勝手な行動と見られる『席替え』や『立ち歩き』などによって協動的な活動ができる学習環境の構築を試みている。また,活動の中で得られた認識によって成員同士の理解を深めることにより,仲間の位置づけを行っている。」と述べている²⁾。では新しい集団で何もわからず立ち歩きが出来ない場合,子どもはどのように学ぶのであろうか。

本研究では,Nの新しい集団での学びの様相を論述するとともに,少人数編成の実態と効果を明らかにすることを目的とする。

研究の方法

(1) 調査対象

新潟県内公立小学校 児童N(現在3年生)

(2) 調査単元

2年:算数,3年:算数,社会,国語

(3) 調査期間 2003年3月~10月

(4) 調査方法

ビデオカメラ,カセットテープレコーダー,ICレコーダー:Nの音声と映像を記録

結果と考察

以下の表は,授業中の,Nの6項目の行動の回数を数え,各項目に関する1授業あたりの平均を出したものである。その項目については以下の6つである。

- [教師との会話]: 教師との会話
- [友達との会話]: クラスの仲間との会話
- [独話]: 特定の相手がいない発言
- [立ち歩き]: 席を立てて動き回る様子
- [発表]: 挙手して指名された発言
- [友達の訪問]: 友達がNの席に見に来る

表:Nの行動

	2年冬	3年春	3年秋	少人数
教師	3.5回	0回	4.7回	9.1回
友達	26.5回	9.5回	10回	4.5回
独話	22.5回	2.5回	19.5回	25.5回
立ち歩き	4.5回	0回	1.6回	2.8回
発表	0回	0回	1.8回	0回
訪問	0回	0回	1.3回	0回

以下にNの具体的特徴や表に示された特徴及び考察を述べる。

(1) 2年生・冬の特徴

(1年生から共に学んできて,慣れ親しんだ集団)

[教師との会話] 教師から出た指示を,繰り返しで発言し,再度教師に確認する。教師が投げかけ

た質問に対して、聞き返す。

[友達との会話] クラス全員が認める算数の得意な子ども(以後Mとする)に対して、解答の確認を行う。また、自分の席の近くの友達に対しては、授業内容に関係のない内容を話す。

[独話] わからないときや、解けたときに自分の行動や思ったことを言葉に表す。

[立ち歩き] 教師から丸をもらおうと立ち上がって、Mに確認する。

・2年生・冬の考察

既にクラスに十分に馴染んでいる状況である。この時期は立ち歩きが有効な学びの手段となっている。また、MとM以外の友達に話す内容が違ふことから、Nは状況によって人を選んで話している。特にMとの間のコミュニケーションは特徴的である。即ち、Nにとってはそのクラスでのそれぞれの仲間の位置づけができています。

(2) 3年生・春の特徴

(クラス替えを行って、知り合っていない集団)

[友達との会話] 自分の解答を確認するために、小声で話す。

[独話] 教師の指示に対してあいづちを打つ。(例:「そっか。」等の小さな声。)

・3年生・春の考察

教師との会話の数が極端に少なく、友達との会話も確認程度の内容であることから新しい集団に馴染めていないことが明らかになった。それゆえ、自分一人で学ぶスタイルが作られている。しかし、自分の解答を確認する術をもてないため不安げな様子が現れたことからこの学びのスタイルはN自身には満足できない学びである。

(3) 3年生・秋の特徴

(半年間共に学んできて、慣れ親しんだ集団)

[教師との会話] 教師が出した課題について、自分が出した解答を「見て。」と訴える。

[友達との会話] 自分の席の近くの友達に対して、授業内容に関係のない内容を話す。

[独話] わからないときや、解けたときに自分の行動や思ったことを言葉に表す。

[立ち歩き] わからないことがあった場合、教師に質問する。

[発表] 挙手をして自分の意見を述べる。

[友達が見に来る] 課題をしている際、Nの席に

友達が集まる。

・3年生・秋の考察

自ら挙手して発言していることから、この集団に馴染むことができている。立ち歩きが少なくなった一方、友達が見に来ていた。よって、2年生と現在のクラス集団でのNの位置づけが変わった。それゆえ、立ち歩きが減少したから学んでいないのではなく、学びの様相が変わった。

(4) 少人数のクラスの特徴

(学年を混ぜて作り上げた、新しい集団)

[教師との会話] 「先生。」と、言いながらわからないことを質問する。

[友達との会話] あいづち程度の会話をする。

[独話] 思ったことを何でも発言する。

[立ち歩き] 授業内容で立ち歩かなければならない状況で席を立つ。

・少人数のクラスの考察

立ち歩きは少なく、更には友達との学び合いの様子も減少し、教師との会話が極端に多くなった。よって、少人数によって教師との距離が近づき、発言しやすくなった。立ち歩きはなくとも、教師との会話によって、意欲的に学んでいる。ここでもまた、新たな位置づけがなされている。これは少人数編成のよさとも言える。しかし、友達との会話が減少していることは、課題として残っている。

結論

Nは集団によって仲間の位置づけをしている。その位置づけができた際、自分が置かれた状況で自分にとってよりよい学びのスタイルを見つけ、学んでいる。Nはこのような過程を通して新しい集団に馴染んでいる。また、少人数では教師との会話が増加している。

今後の課題

今後、このようなデータをもとに、更に少人数編成の良さや、解決していくべき課題をより明確にしていきたい。

【引用文献】

1) 学級規模と教職員の数(現代教育新聞)

http://www.gks.co.jp/y_2001/s-data/etc/01031517a.html

2) 辺土名智子:「中学生の強化学習への参加構造と学びの関連性」,上越教育大学修士論文, p.43 ,p.71 ,2003